

森の民話茶屋通信

Vol.17

福島県地域づくりサポーター事業
『ふるさと民話とふるさと森をつないで...』



橋本幸さんが、土手草刈りをして下さいました。



患者さんの会の方々にメニューの説明をするメンバーの鈴木ミチ子さん



～4月20日～10月20日毎月1回発行～

発行責任者／森の民話茶屋店主 後藤みづほ
福島県安達郡大玉村玉井字前ヶ岳国有林7林班 Tel.0243-48-4648

店主が主なる！村のオウツ子 Vol.11

「やまのパン屋しゃっぱ」さんのオーナー
高橋俊勝さん(60才)・フミ子さん(54才)ご夫妻を訪ねて



県道本宮／土湯温泉線の不動橋を過ぎて大玉村から二本松に入って間もなく、いつも賑わっているパン屋さんがあります。「やまのパン屋しゃっぱ」という可愛い名前で三角屋根に赤いポストが緑の木立の中で一層印象的な店です。入ると直ぐに「とりかえっこ文庫」があり、本が大好きなフミ子さんの感性が光ります。店内には焼き立てパンの良い匂い、奥には喫茶コーナーもあって豊かな香りのコーナーも楽しめます。

Q／ここにお店を始めて何年ですか？

俊／三年になりますね。東京で二軒のお店を経営していました。

Q／やはりパンのお店ですか？

俊／そうです。パン作り33年になります。

Q／凄いですね。ご出身は？

俊／僕は東京、彼女はここの東和町なんです。(仕事を終えて席に座られたフミ子さんを見ながら)

Q／そうなんです。知り合ったきっかけは何だったのでしょうか。(思わず笑った私の質問はいかにも世話好きなおばさん風になっていました。スママセン。でも不思議な程、お二人の顔が似ているのです)

フ／短大が山形の米沢だったんですね。近くに教会付属の幼稚園があってそこに勤めたんですが、その園長先生の牧師さんが彼の叔父さんだったんです。

Q／なるほど。(ナットク...)

フ／夏休みのスクーリングで玉川学園に行ったりして...

俊／その頃、僕は焼き菓子専門の店で働いていたんですが、彼女と結婚して一年半で独立、店を構えたんです。二軒目の店も持って10年でした。

Q／こちらに移されるきっかけは？

俊／東京の店は、お客様とお得意先に恵まれて、時間

に追われ通したったんですね。五人の子どもたちの教育を終えて、授業料を払う必要が無くなった時に改めて自分のやりたい仕事になっていくかどうかを考えたんですね。

Q／そこが凄いですね。

俊／確かに不安はあったんですけどね。

フ／男の人には自分の築いてきたモノというのがあるので大変な決心だったでしょうね。でも私は少し心配していませんでした。

Q／今、何人で仕事を？

俊／長女夫婦と次男夫婦と僕たち夫婦の六人で...

Q／お子さんたちと一緒に仕事というのは、父親としてはある意味で又一段と大変なのでは？

俊／そうなんです。責任もあるし...

フ／でもこの仕事が好きかどうかを確かめて...ね？

(と俊勝さんに相談を求め)

今は朝の三時に起きて仕込みを山の早起きパン屋さんです

それは時間と優しさ

Q／四月から十一月までは定休日が無いんですって？

フ／だって、こんな山の中にわざわざ買いに来て下さるのに、定休日の看板を見て戻って行かれるお客さまがいて、定休日を止めたんです。初めの頃は定休日を作っていたんですけど...

Q／お客さまの事を考えて仕事をしていらっしゃるのですね。

俊／水と空気ですね。そして卵、どれもパン作りには大きな違いが出ます。そして時間がゆったりして...

フ／そしてこの地域の人たちの優しさです。最初近所の方々に挨拶に行った時に「今度パン屋さんが出来るんだってね」と言ってくれた人たちが今も...

Q／こんなに夢を叶えていらっしやるお二人ですが、これから新たな夢は何ですか？

MAP



俊／「女房が幸せになること」かな。女房のお陰で五人の子どもたちがみんな手に技術を持つ人間になったし。それにここに住んだら冬はスキー、夏はテニス。

Q／パンはどれも自慢の作品でしょうが、特にお勧めは？

俊／パンの講師の先生にも大好評なのがラム酒に漬けたレーズンとくるみの入った『山のパン』ですね。

Q／お忙しい中を時間を割いて頂いてありがとうございます。これからもどうぞ美味しいパンを作ってください。

「森の民話茶屋通信」に掲載する写真をお願いした私が、俊勝さんの椅子の傍にフミ子さんに来て頂こうと思っただけで、サッと俊勝さんがフミ子さんの傍に椅子を移しました。私は俊勝さんの作るパンの本当の味の原点はここにあるのだと妙に又々、納得してお別れしました。

店内の掲示板

過ぎ行く夏を惜しんで

『今年の夏は、今までで一番暑い夏だったねえ…』と、思い出すのも辛いような言い方でお客さまと挨拶を交わしながら、一方では夏が過ぎて行くことの名残惜しさにも駆られるのは、秋の気配が色濃くなってきたからでしょうか。

「森の民話茶屋」は、八月の半ばから薄く花色をつけ始めた萩が窓から見えていて、里よりも随分季節が早いことがわかりますが、その萩が告げている秋の訪れが信じられないような残暑が続きました。外のデッキがカフェテラスの雰囲気で大変人気でした。

そんな中、皆さまのお陰で開店三年目を迎えた「森の民話茶屋」は、この夏も大変な賑わいでした。出来事の少しを大切な思い出として記しましょう。

6月23日(日) JA郡山親子教室32名

雨模様のお天気だったので県民の森へ出掛ける時間を遅くして、「森の民話茶屋」で民話を聞く時間と食事をゆっくりして行かれました。

7月4日(木) 隣組 馬場平の皆さま17名

新しく引っ越しをして来た方々と、昔から長くここに住んでいらっしゃる方々と仲良く誘い合って「森の民話茶屋」へ来て下さいました。

店主を初めスタッフ一同、大感激でお迎えしました。民話の語りを1時間程楽しみ、朝採り野菜の手料理も勿論大変喜んで頂きました。

7月15日(月) 福島中央テレビ(FCT)「ゴジてれシャトル」生中継

折からの台風6号接近の日、時折強く降る雨の中を、テレビ局からリポーターを初め8人が15時30分に来店。電波の具合や時間の配分でテンヤワナヤ。とにかく8分で「森の民話茶屋」の総てを放映しようというのだから大変。

営業日でない為、お客さまになって下さる方と私たちスタッフは、合わせて15名。17時26分位から立派に無事終了。ビデオ撮影やラジオの生中継は何度も経験していましたが、テレビの生中継は初めての体験。その後、大勢の方々から『見ましたよ』とお声を掛けて頂きました。

7月16日(火) 食品衛生管理検査 二本松市岳下住民センターにて

飲食業の許可には、自主的に一年に一度、食品検査が必要ということで、受検。勿論合格の通知が10日後にありました。

お客さまのメッセージ

おにぎり、とってもおいしくまた食べに来ました。やっぱり、おこめがおいしいです。

自然乾燥のお米との事。やっぱりネ!

こんど、お米を買いにきます。そしてまた食事にきます。おにぎりset、いろんな品数のお料理、嬉しくなります♥

7/20 郡山市開成 K

新聞を拝見しまして、一度行ってみたいと思っておりました。未来博以来すっかり民話のとりこになりました。

今日はおいしいおもちセット、アイスクリームも大変おいしかったです。今度は主人もつれてきたいと思いました!!

昨日、私は誕生日でしたが、何もなかったので、一日おくれの誕生日祝です。

民話茶屋の今後の発展をお祈り致します。

7/28 日和田町 Y/大玉村大山 N

今日は仕事でなく、家族をつれてきました。この良さを自分だけ独り占めするのはもったいないと…。

子どもと一緒に遠藤ヶ滝でトンボを取ってきました。いっぱい、いっぱい…。

ここでは、おいしいおいもとお茶、狸の話には子どもも興味津々、次回は妻も連れて来ようと思います。

福島市 山本M

テレビで見て初めて知り、今日さっそく来てみました。自然の中で、木の建物でとても気に入りました。

おにぎりセットもおいしく、品数も多くボランティアで作って下さった皆様、本当にごちそう様でした。

暑い中、大変ですが頑張ってください。又、寄らせてもらいたいと思います。

7/20 桑折町 恵美子

7月23日(火)・26日(金)・27日(土) 19~20時フォレストパークあだたら夜語り

一昨年も好評を頂いたフォレストパークあだたらのレクチャーホールでの夜語り。

8月1日(木) 福島広域行政事務組合主催 在住外国人交流事業63名来店→

昨年に続いての来店。県北各地から小学5年生以上と中学生、中国、韓国、ニュージーランドの方々が。昨年より2倍の応募者があり2班に分かれて来店。とうもろこしのお土産に大喜び。

8月18日(日) 安達太良ソバ生産組合 鈴木宇一さんの手打ちソバ

12時30分には完売。後から来た人々にお断りするのが大変。この日はお餅やおにぎりセットも勿論大好評でスタッフは忙しさに悲鳴。ふーっ!



←8月22日(木) 川俣、福島から糖尿病を克服する会の方々12名来店
前に来店された方がみなさんを誘って来店。予約により特別に食事を用意。「こんな食事をしていれば病気にならないんだね」と口々に。秋にも来店したいとのこと。(表紙写真も)

8月23日(金) 新聞掲載のための取材、東京の広告企画会社とスポンサー5名来店→

9月15日の福島民報と福島民友新聞の半ページに地域づくりグループの紹介記事を書きたいとことで東京と仙台から来店。プロのカメラマンの撮影に「森の民話茶屋」のメンバーは大騒ぎ。どんな写真になっているのか…とても心配! どうぞ美人に写っていますように。(無理?)

…以上、夏の思い出を記してみました。今年も実りの秋は豊作の様ですね。「森の民話茶屋」は11月30日まで開店しています。月、火を除く毎日です。

紅葉の見頃はいつ頃でしょうか。又、皆さまのお出でをお待ちしています。

店主敬白

→会津の語り部の名手、五十嵐七重さんが突然来店。翌々日、宅急便で金山町の妖怪の人形と、心温かいハガキが届きました。



↑絶妙の笑いのタイミング!
郡山から来た男性、仲良し三人組がアットホームの帰りに。



←大山大坪鈴木サノさんより「状差し」を頂きました。爺ちゃんの100年前の袴を萱葺き屋根に見立ててデザイン。



↑玉井馬喰内小沼夕子さんの実家のお父さん制作のブックリ。

←千葉県の語り部、藤田浩子さんから、手作り「びゅんびゅんごま」が送られてきました。